



国労西日本

国労西日本本部

NO. 365

発行責任者 植田 重信
編集責任者 大北 真也

国労西日本HP



国労西日本 検索

第38回定期西日本本部大会

13名の代議員が発言

明るく働きやすい職場をつくろう！

第38回定期大会代議員発言要旨

① 藤江 美男代議員（米子）



安心して働き続けられるように

インバンドも増え利用はコロナ前の水準に戻ってきている。中統の設置により様々な効率化施策が推進され、経費節減や超勤の抑制等、現場の社員は我慢を強いられてきた。鉄道部の廃止や現場のスリム化等で働き方が大きく変更されてきている。ローカル線問題は再構築協議会が設置され全国に広がっていくのかが危惧している。スマホが無いとJRに乗れないような状況になっている。ダイヤも元に戻すように団体交渉等で主張している。山陰地区は人口も少なくエリアも広い。市町村に出向いて意見交換をしている。設備面についてもどうなのかと意見を頂いた。団体交渉に活かしていく。また、取り組みを強化していく。

② 石田 尚之代議員（近畿）



29歳の青年が加入共に奮闘していく

組織拡大が出来た。日頃の取り組みから組織拡大に繋がっている。国労の見える化、見せることが大事であり魅力を見せて引き続き仲間を迎え入れていく決意である。

③ 後藤 通広代議員（北陸）



能登半島地震仲間の支援に感謝

春闘においては低額回答であった。社員への責任転嫁は受け入れられない。内部留保を活用し還元してモチベーションを上げることが大事である。25春闘は国労要求満額獲得に向けて全組合員総団結しストライキで闘うべきである。

④ 小林 裕二郎代議員（岡山）



地方ローカル線の廃止反対に奮闘

他労組に向けて取り組んだアンケートでは物価高騰で生活が苦しい、会社や所属労組への不満、所属労組は組合の意見を聞き流し会社立場で発言するの期待や信頼がない等の意見があった。これが労働者の現状であり、しっかりと組織拡大へ繋げられるように奮闘していく。

⑤ 小島 己明代議員（広島）



法改正で労働条件が悪化している

バス業界においても2024年問題がマスコミから取り上げられている。大幅な減便、終便の繰上げ、不採算路線の切り捨てなどが行なわれ利用者にも影響を与えている。乗務員は業務が圧縮され休憩時間が減り負担が増加している。要員不足により休日出勤も増えている。法改正以前の方が楽であったと声が出ている。

⑥ 永井 義弘代議員（近畿）



利用者への安全やサービスが低下

西日本会社は福知山線事故以前の利益を追求する「かせぐ」が優先されて「安全・サービス」が軽視されている。要員削減、遠隔MVの導入、改札無人時間帯の増加等が行なわれている。遠隔MVの導入が進むことで困っている利用者はみどりの窓口を求め、みどりの窓口がある駅では混雑している状況である。オペレーター対応時間の変更で不便になっている。利用者はきっぷを買うのにみどりの窓口で待たされる、MVで待たされる、改札口で待たされるなど、大きな迷惑がかけられている。どうにか

⑦ 田中 譲二代議員（近畿）



南海トラフへの安全対策を

この間巨大地震が発生している。南海トラフに関する地震が調査し気象庁より巨大地震注意報が発令された。近畿統轄本部が対策本部を立ち上げ、和歌山支社管内では新宮、御坊駅間で普通列車の徐行、新宮、和歌山駅間で特急列車の運転取り止め等が行なわれている。和歌山支社管内では工事の一部中止されている。実態としては鉄道を利便するための移動は困難となっている。その中で、社員の通勤への支障や乗務員の行路変更に伴う勤務変更、工務関係の障害対応など、利用者と社員の安全をどう守るのか問われている。津波避難など対応が求められている。

労働条件の改善については、無人駅や遠隔MVがどんどん進んでいる。省力化や大単位化も含め、効率化が進んでおり労働

地方ローカル線の廃止反対運動に奮闘してきた。新見駅前

行なった宣伝行動では山陽新聞などから取材も行なわれた。今後も引き続き奮闘していく。組織拡大は最重要課題である。岡山ではJR採用2名しかいないが今後も拡大が出来るように奮闘していく。

ならないのかという声が多い。遠隔施策導入時の「迷惑をかける」という約束が反故されている。係員の対応は増え労働条件が悪化している。東日本では利用者に迷惑をかけているとして社長が謝罪もしている。労働組合としてしっかりと声を上げていかななくてはならない。度重なる輸送障害で長時間のダイヤ乱れがあり混乱状態であった。輸送指令員の資質が問われている。雪害の時のことが活かされていらない。技術継承がしっかりと出来ていない。会社の運用が問題である。鉄道事業者としての使命感、責任感を放棄していると言わざるを得ない。利用者が安全で安心して利用できるように改善を。

裏へ続く

前ページより

労使安全会議等でしっかりと真摯に議論するべきである。

近畿統轄本部の重点実施項目では〇番が「福知山線事故を心に刻む取り組み」、1番が「安全向上と安全最優先の風土の醸成」としている。一方で無くなりはないホーム転落事故についてであるが、鳴野駅でのホーム要員の配置、転落防止対策を求めたこれまで奮闘してきた。

抜本的な見直しをしっかりと行なうように地域の方々からの署名も多々いただいている。パリアプリー料金を頂いており活用をしているがホームスクリーンでは抜本的な解決にはならないホーム柵の早期設置や隙間を無くす対策が必要である。

組織拡大・強化については、会議やバーベキューの開催、東京地本の加入した組合員を招いて交流してきた。職場の労働条件の改善や取り組みが実を結び拡大に至っている。諦めないで引き続き取り組んでいく。

春闘では地域から春闘を盛り上げるように取り組んできた。初めて近畿統轄本部での行動も行なった。回答はこれまでの労働者の労苦に背くものであり、経営責任を果たしていないと言わざるを得ない。25春闘はストライキの配置を要請する。

コロナが5類となったが今も尚拡大している。職場でのまん延を防ぐように対策を求めたい。



加藤 昌孝 特別代議員 (博多)

新幹線の電気職場で大現場区化されたが要員も増えず苦勞している。異動に対して交渉の回答を踏みにじった発生がある。要員配置や異動について現場の声を反映していただきたい。JALの仲間が解雇され今も闘っている。「経営上解雇の必

要は無かった」と発言しており、背景には物言わぬ労働者作りとなっている。国鉄分割民営化と同じであり我々がしっかりと支援するべきである。

春闘についてマスクは空前の賃上げだと報道しているが、物価高には追いついておらず実質賃金はマイナスとなっている。利益を得ても株主や内部留保へまわすのが多く労働者には僅かしかない。ストライキを背景に春闘を闘う」と掲げるなら「要求額に達しない場合はストライキを行なう」と通告を行なうべきである。25春闘はストライキ通告を行なうと闘うよう要請する。



吉岡 とし子 代議員 (近畿)

業務執行体制見直しの団体交渉を行なった。主張により医師へのタイムカードの導入で勤務実態把握に力を入れるように改善された。クラークへの置き換えがされたが、看護師の急な休みが出ると補充も追いつかない状況である。患者からの電話対応があるが、4回線あっても2名しかいない状況であり、苦情も増えている。看護師の業務は増えている。安全を維持するためにも看護師の適正な配置を求めたい。就職して国労に加入した。闘う労働組合として国労の名前も変えず今まで存続してきたことは自分にとって間違いのない選択であった。

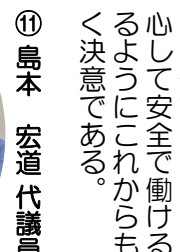
24春闘は満額回答が多く期待をしていた。しかし会社の回答はまよかしの数字であり我々の要求にはほど遠いものであった。諸手当の改善は、これまで国労が責任者手当の増額を求めて奮闘してきた結果が結びついたものである。25春闘では大幅賃上げ獲得に向けて奮闘していく。



安東 陽一 代議員 (近畿)

二度と悲惨な事故を起こさせない

65歳定年制はどのように考えているのか。これからの世代には大きな問題である。健康で安心して働けるよう、同一労働同一賃金を求めたい。感電死亡事故が発生した。以前にも若い労働者が亡くなっている。確認を疎かにしてしまっている。二度と発生させないよう団体交渉も行なってきた。安心して安全で働ける職場をつくるようにこれからも奮闘していく決意である。



島本 宏道 代議員 (近畿)

組織拡大は喫緊の課題として取り組んできた。分会にJR採用の組合員がいるので共に連携して奮闘していく。

車掌区は慢性的に要員不足で休日出勤が増えており、係長が乗務することも増えている。早期改善をしていただきたい。点呼アプリでは時間が足りず早めに出勤しているのが現状である。安全の為にしっかりと余裕ある準備時間が必要である。ダイヤ改正交渉では行路表も示されない。乗務員にとって行路表は労働条件であり示すように求めていただきたい。ホーム柵が増えているが乗務員としては神経を使う。会社はホーム柵があるから安全としてホーム要員を減らす。ホーム柵がない箇所でも削減された。安全の為にしっかりとした配置が必要である。

輸送障害が多発しており、指令員からの情報が全然無く苦勞した。特に指令員は技術継承が出来ていない、強く抗議をしていただきたい。来年でシニア満了となるが最後の最後までしっかりと奮闘していく。



藤原 浩二 代議員 (近畿)

国労組織の現状は厳しいものである。組織強化・拡大を闘いと位置づけ闘争指令が発せられてきた。5年ビジョンが示された。今年の全国大会では、スリム化に向けた議論、主体をどこに置いた運動を強化するのか、組織拡大の重要性を自覚し運動していく決意として総括された。今こそ関連労働者の組織化を大きく進めたい。関係は



宮野 正貴 代議員 (近畿)

現場から総団結し全組合員で奮闘を

多くの代議員から会社の施策に対する問題点や安全意欲、組織拡大・強化に対する意見などがあつた。指摘も含め貴重なご意見本当に感謝する。ストライキをやるのかしないのかという判断は中央戦術委員会で議論し中央執行委員会での判断になるのでご理解を頂きたい。24春闘では、ベースアップをはじめ様々な増額を求めて奮闘してきた。責任者手当については長年国労が求めてきた成果である。25春闘はしっかりと職場から要求を上げていただき全組合員で奮闘していただきたい。

大北書記長 集約 (要旨)



ローカル線問題については、方針に記載をしているが、鉄道路線維持の為に国の関与に向けた取り組みが重要である。本部と連携して国交省要請もしているが、全国の運動とさせていくためにも地方と連携した取り組みが出来るように考えていく。安全問題では、人減らし合理化が急速に進められている。2050年の労働人口は今の半分と言われている中でどのように鉄道を守るのか、職場を守るのか、少ない要員でも作業の効率を落とさない、安全性も低下させないようにしっかりと施策に対して注視していく。交渉の形骸化、労働組合軽視が見受けられる。過去の交渉経過を勉強させ守らせていく。組織の問題では、国労の将来展望をどう見るのか、減っていく未来だけを見ているのか、そこが課題である。増える、増やす為の展望を見ない限り何も変わらない。強い気持ちを全組合員がもち、しっかりと行動しなくてはならない。「TUNAG」を活用し役員の負担軽減を行なうことで次の1歩も踏み出せる。職場集会を開いて組合員の皆さんの集まる場を作るなど組織三原則が出来るようになる。限られた組合員の数で出来ることを最大限行ない前進させることが重要である。組織を多数派にしていくため、今のJR採用者の未来の為に苦手を克服し、組織の多数派に向けて共に奮闘することが求められている。今年には能登半島地震、最近では宮崎・神奈川で大きな地震があつた。早期復興を願うと共に、支援できることは支援してまいりたい。2025年は大阪関西万博が開催される。大阪では危険だという報道がやまない。しっかりと安全対策をして頂きたい。岸田政権の支持率の低下、維新への期待も低下している。今こそ、戦争する国づくりを進める政治にNOの審判を下す時である。国民不在の暴走政治を許さず、国民主人公の政治へと転換させるためにも市民と野党一丸となって奮闘することが求められている。政治を変え、働きやすい職場に変え、明るく働きやすい職場を構築する、その先頭に西日本本部が立つ決意、そして先輩方とともに国労の旗を守りぬく決意を申し上げ集約とする。

代議員の皆様は活発な発言がありありがとうございます